

～男女共同参画社会の実現に向けて～

モア MORE

ひとひと
幸手市女と男の情報紙
第22号 2017

モア(MORE)とは、女と男がより豊かに、よりすばらしい
男女共同参画社会実現への願いを込めて命名しました。



絵・デザイン 三澤昭人 作

- ◆ひとひと 女と男の共生セミナー・・・・・・・・・・2. 3
- ◆幸手市男女共同参画推進協議会の取り組み・・・4
- ◆第25回埼葛人権を考えるつどい・・・・・・・・・・5
- ◆日本女性会議2016秋田・・・・・・・・・・5
- ◆特集～違いこそが個性を作る、
自信を作る、魅力を作る～・・・・・・・・6



幸手市マスコットキャラクター
「さっちゃん」

平成28年度 ^{ひと}女と^{ひと}男の共生セミナー in幸手中学校

平成28年度「女と男の共生セミナー」を11月5日(土)に幸手市立幸手中学校で開校70周年記念式典とあわせて開催しました。

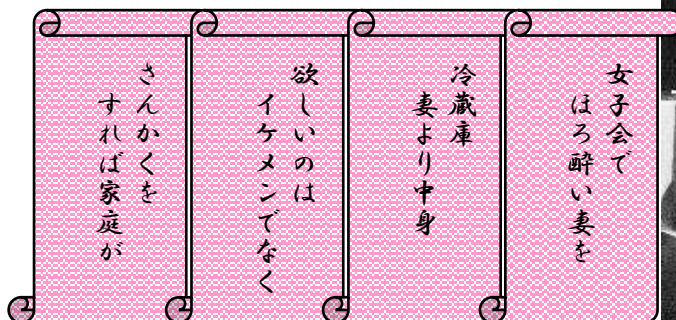
今回の講師は落語家として寄席などで活躍する一方、男女共同参画に関する講演が好評。現在、子育て真っただ中の一児の母、春風亭鹿の子さんです。



講演

「私らしいワーク・ライフ・バランス」

落語家 春風亭 鹿の子 氏



(男女共同参画社会実現に向けて
発表された公募川柳より)

○なぜ落語家に

東京の下町に生まれ、子どものころから父に連れられ寄席へ。言葉での下町コンプレックス。“ひ”と“し”の区別ができない。でも、落語の登場人物も“ひ”と“し”の区別ができない。これなら私もできる。**コンプレックスは個性になるんだ。むしろ自分らしくていいのかなと思うようになった。**

○男性社会に飛び込む

落語家は現在688人。その中で女性は10人。完全な男性社会であり、厳しい身分制度がある。前座の4年間は朝から夜まで休みなしで働く。先輩の言うことは絶対。自分の仕事はない。給料はない。時間だけがある。でも、**苦しくても好きな社会にいられる。一生懸命に稽古すること、若い時にしかできない苦労は貴重である。それが私の財産になるはずだと思いながら努めてきた。**

○男女共同参画とは

日本は女性にとって厳しい時代があった。**今は女性も男性も働く時代。どんな仕事もできる。しかし、共働きの社会では女性は育児や家事が大きいのかかる。男性も一緒にやろう。大変なこと、うれしいことなど分けあおう。そして、両親だけでなく、祖父母、地域のみんなで一緒にやっ払いこう。みんなで見守っていこう。みんなで社会をつくっていこう。**

○講演会を通じて・・・

講演では、落語や「水泳の4つの泳法を顔で表現する練習」もあり、体育館が笑いの渦に包まれる場面もありました。

男女共同参画 アンケートから

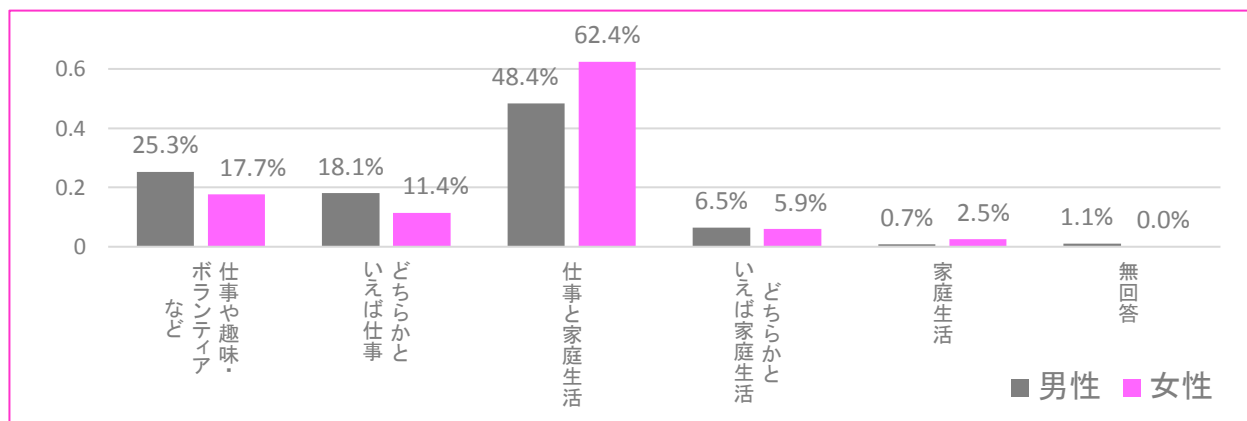
この共生セミナー終了後、生徒の皆さんにアンケートに協力いただきましたので、その一部を紹介します。

〈生徒の感想から〉

- ・女と男のセミナーは男女差別のことを考えさせられる内容だった。僕が大人になったら家庭の仕事も積極的にやりたいと思った。
- ・共生について落語を通して知ることができました。男と女でまだ差があるかもしれませんが、だんだんとその差を埋めることができればいいと思います。
- ・鹿の子さんによる落語で人権の大切さを理解することができました。男女の平等は社会にとって不可欠だと思います。

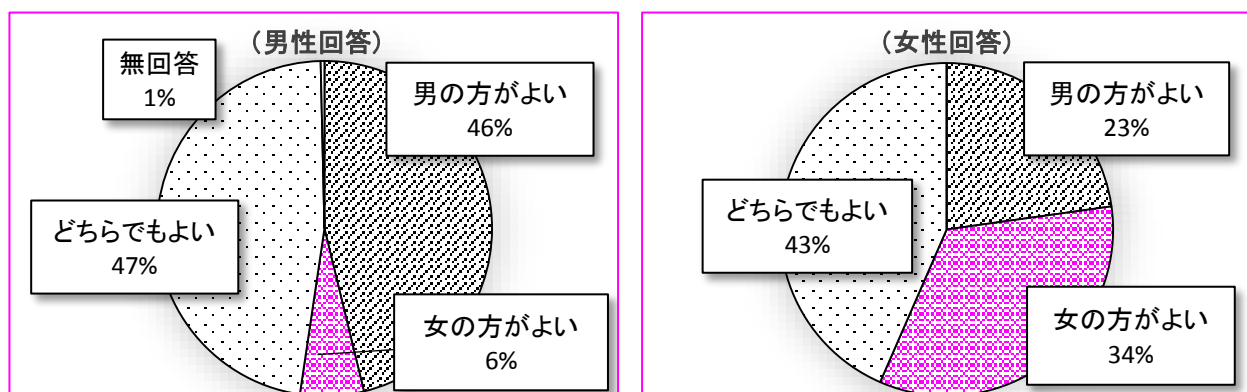
〈アンケートの設問から〉

Q あなたは大人になったら何を優先しますか？



男女共に「仕事と家庭生活の両方を重視したい」とする傾向が強いです。全体的に男女共に同じように考えていることが分かります。男女共同参画の意識が中学生に浸透してきていると思われます。今後に期待していきましょう。

Q 生まれ変わるとしたらどちらがよいですか？



男性については、「男性の方がよい」とする傾向はありますが、女性も男性も「どちらの性でも受け入れる」という意見が約半数を占めています。

○共生セミナーを通じて・・・

アンケートの結果や生徒の感想から、女性と男性が互いの性差や身体的な特徴を理解して、家庭、学校、仕事、地域などあらゆる分野で、個性と能力を発揮して活躍できる社会づくりを進めていく努力が大事であると感じました。

生徒や保護者、地域の皆様、ご参加ご協力いただきありがとうございました。



幸手市男女共同参画推進協議会は、 このようなことを行っています！

男女共同参画を推進する条例(案)を作成しました

平成28年5月31日(火)に幸手市長から諮問を受けました「男女共同参画を推進する条例」の必要性及び条例案について、男女共同参画推進協議会では、8回の協議会を開催し、審議を行いました。

この結果、条例制定を必要とし、条例(案)を取りまとめ、協議会(案)として幸手市長に答申をいたしました。

本条例は男女共同参画社会実現に向けた幸手市の基本理念を示すもので、大変意義深いものになると考えております。

今後については、市の意思決定を経て議会への上程手続きを行うこととなります。



(男女共同参画推進協議会)



(会長及び副会長から市長への答申)

渡辺市長より

男女共同参画推進協議会の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

男女共同参画は、これからの日本社会において、さらに重要さを増す課題であると考えております。

また、幸手市においては、子育て応援日本一を掲げ各種事業に取り組んでおります。

子育て環境を整えるためにも、男女共同参画社会の実現は必要不可欠な課題でありますことから、答申をいただいた条例(案)を基に、条例制定に向け全力で取り組んでまいります。



男女共同参画週間 パネル展を実施しました

国の男女共同参画推進本部では、「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日である平成11年6月23日を踏まえ、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」としています。この期間での様々な取り組みを通じ、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることを目指しています。

幸手市では、今年度から市役所ロビーにおいて、「男女共同参画パネル展」を行い、今後も引き続き、同期間で行うこととしました。(写真参照)

女性と男性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには 国や地方公共団体だけでなく、皆さん一人ひとりの取り組みが必要です。

私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか？

第25回埼葛人権を考えるつどい

～出会い ふれあい 思いやり～

人権問題に日々取り組んでいる多くの団体が中心になって毎年開催される「埼葛人権を考えるつどい」が10月13日（木）に久喜総合文化会館で盛大に開催されました。

今回のつどいのテーマは「誠」です。このつどいをとおして、多くの人々と出会い、ふれあい、思いやりを持って、お互いを認め合う差別のない明るい社会の実現に向けた人権意識の高揚を図るため開催されました。

会場に入ると、平成23年3月の東日本大震災以降、埼葛12市町の子ども達から寄せられた復興を願う折鶴約61万羽が会場を埋めつくし、来場者を出迎えてくれました。

大ホールのステージでは、幼・小・中・高齢者・福祉団体等の趣向を凝らした発表に大きな拍手が送られました。屋外のミニステージでは、パフォーマンスが繰り広げられ、特に県立幸手桜高等学校演劇部の「ちんどんパフォーマンス」がステージを盛り上げ、拍手と歓声に包まれました。



(ちんどんパフォーマンス)

この「人権を考えるつどい」をとおして、共に活動し心をつなげて発表する姿に感動するとともに、改めて人権について考えることのできた、実り多い有意義な一日となりました。

「道」ゆく人々の「心」がふれあい、その中で芽生えた「情」が満ちあふれ、心に「愛」が響きわたった人々の大きな愛が、いつまでも「誠」のものでありますようにと願ってやみません。

次回は、2017年10月12日（木）に越谷コミュニティセンターで「和」をテーマとして開催されます。



(61万羽の折鶴)



日本女性会議2016秋田

みつめて みとめて あなたと私
～多様性（ダイバーシティ）とは～

2016年10月28日（金）、29日（土）に秋田県秋田市で、女性が活躍の推進の気運を高め、男女共同参画社会の実現をめざして、全国から約1700人が集まり、第33回「日本女性会議」が開催されました。

開会式に続き、武川恵子内閣府男女共同参画局長による次のような報告がありました。

はじめに、男女がともに暮らしやすい社会を実現するため、2015年12月に「第4次男女共同参画基本計画」を閣議決定し、男性中心の働き方を前提とする労働慣行等の変革に当たるとともに、指導的地位に就く女性の人材層の拡充を含めた女性の参画拡大等の取り組みを重点的に推進していること。

次に、2016年4月に、女性活躍推進のための「女性活躍推進法」が、完全施行されたことによって、民間企業や地方公共団体、国における女性の積極的な採用、登用を増やす努力を展開していることなどが、紹介されました。

そして、この秋田大会をとおして「みつめて みとめて あなたと私 ～多様性（ダイバーシティ）とは～」を大会テーマとして、幸せで豊かな社会を築いていくためには、多様性を尊重し、気遣い合う社会を作っていくことが大事である点が強調されました。

また、翌29日（土）には「女性の活躍」をはじめ10の分科会が開かれ、活発な議論が行われるなど、子育て応援日本一を掲げ各種事業に取り組んでいる幸手市にとっても、意義深い会議となりました。

次回、第34回「日本女性会議」は、2017年10月13日（金）、14日（土）に北海道苫小牧市で開催されます。



(秋田市内の中学生による竿灯)

特集

日本女性会議2016秋田 記念講演から

～違いこそが 個性を作る、

自信を作る、魅力を作る～

ヘア・メイクアップアーティスト／ライフスタイルデザイナー

藤原 美智子 氏



〈プロフィール〉

ラ・ドンナ主宰、雑誌広告撮影のヘアメイク、執筆、化粧品関連のアドバイザー。
講演、TV出演等で幅広く活躍。栄養コンサルタントの資格を持ち、ライフスタイル全般を提案。秋田県横手市出身。

10月28日（金）に秋田県民会館での「日本女性会議」の記念講演にて大会テーマである多様性（ダイバーシティ）について、美の観点より「違いこそが個性を作る、自信を作る、魅力を作る」と掲げ、思いをこめて語ってくれました。

～どんな人がきれいですか～

取材などで尋ねられると、いつも「生き生きした人です」と答えます。テレビや雑誌で活躍するモデルや女優の髪をセットしたりメイクしたりする仕事を35年以上続け、数え切れない女性の顔に触れてきた立場からの確信です。**生き生きしている人からは必ず周りを魅了するものが現れます。魅力は人それぞれ。違いをみつめて、みとめて、自分を慈しんで。違いこそが個性を作り、自信を作り、魅力を作るのです。**

人と人とのつながりも、さまざまな思いや考え方の違いを尊重して受け入れ、性別や年齢、職業、国籍、障がいなどを越えて、一人ひとりが安心して「ありたい姿」でいることができる多様性を認める社会であり、常に生き生きと行動していきたいと力強く締めくくりました。

今回の講演から、今の自分の生き方を改めて見つめ直すことができました。常に物事を前向きにとらえ、過去の自分にとらわれず、今をどう生きるかによって、深みのある人生になり、心豊かな生き方になると思いました。

表紙の絵

幸手市民の多くが幸手駅を利用していると思います。この人たちの人権が尊重され、個々の個性と能力を十分発揮することができることを願い表現しました。

編集後記

世界経済フォーラムは10月26日（水）に2016年の世界各国の男女平等の度合いを指数化した男女平等ランキング（ジェンダー・ギャップ指数）を発表しました。

日本は世界144カ国中111位となり、主要7カ国（G7）のうち最下位で、前年の101位から大きく順位を下げました。国は「すべての女性が輝く社会づくり」を推進していますが、課題が多いと感じました。

このような状況で私たちは、将来を背負う中学生のために女と男の共生セミナーを幸手中学校で開催しました。生徒一人ひとりには、必ず「よさ」や「とりえ」があります。その能力を発揮でき、多様な生き方の選択が出来る社会づくりができるよう願っています。
「モア」がその一助になれば幸いです。

ひとひと

